

基本施策21 魅力あるまちづくりの推進

【施策統括課：国立駅周辺整備課

主な関係課：富士見台地域まちづくり担当、南部地域まちづくり課、まちの振興課、道路交通課、都市計画課、環境政策課】

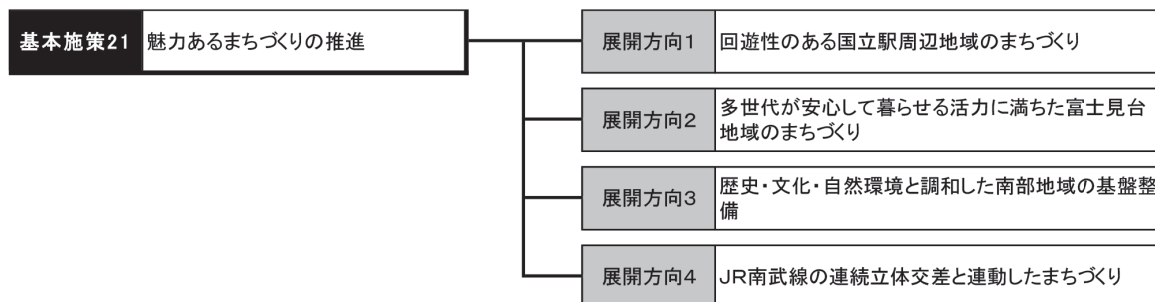
<現状と課題>

- 1920年代の大正末期から昭和初期にかけて整備が進められた国立駅周辺の市街地(「国立大学町」)は、令和8(2026)年4月に国立駅の開業から100年を迎えます。
- この間、国立大学町は、戦後にほぼ全域が文教地区に指定され、「文教都市くになち」を象徴する地域となっています。このような特徴を持つ国立駅周辺地域は、平成25(2013)年に中央線連続立体交差事業が完了し、大きく環境が変化しました。
- 国立市では、平成21(2009)年11月に、今後の国立駅周辺のまちづくりを進めていくための基本的な方向性を示した「国立駅周辺まちづくり基本計画」を策定しました。同計画に基づき、着実に事業を進めた結果、平成30(2018)年5月には国立駅前くになち・こくぶんじ市民プラザが開設され、平成31(2019)年2月には国立駅北口駅前広場が再整備されました。
- 令和2(2020)年2月には文化財でもある旧国立駅舎が再築されました。旧国立駅舎は「まちづくりの駅」として活用し、国立大学町のまちづくりの歴史を後世に伝え、市への愛着を醸成するとともに、まちの回遊性を高め、まちの魅力を発信する役割を担う拠点としていく必要があります。
- また、国立駅周辺は、回遊性を高めるため、引き続き国立駅南口広場の再整備や周辺道路の整備のほか、再築された旧国立駅舎周辺の空間をより魅力あるものとなるよう、関係団体等と協力しながら引き続き整備していく必要があります。
- 富士見台地域は、1960年代の昭和30年代後半に、当時の日本住宅公団(現在の独立行政法人都市再生機構(以下、UR都市機構))が、国立富士見台団地の建設とともに進めた土地区画整理事業により基盤整備が進められました。それに伴い、農地が広がっていた土地に、住宅や公共施設の建設が進み、市街地が形成されました。
- 国立富士見台団地は、1965(昭和40)年に完成し、創設から50年が経過しており、現在は日本各地にある多くの団地と同様に、高齢化率の上昇、空室率の上昇等の課題が生じています。
- また、東京都により、矢川駅近くにある都営矢川北アパートの建て替え事業が進んでいます。居住者の高齢化率は高く、建て替え後の団地で安心して暮らすことのできる環境の整備をどのようにするのが問われています。
- これらの課題に対し、平成30(2018)年2月には、「国立市富士見台地域まちづくりビジョン」を策定し、今後のまちづくりの方向性を地域住民及び関係団体と共有しました。今後は、具体的なまちの姿を示し、このビジョンの実現に向けて取り組んでいく必要があります。

- 都営矢川北アパートの建て替え事業において生じる空地に、少子高齢化を始めとする地域課題に対応した、まちのにぎわい拠点を整備するため、市では、平成30(2018)年3月に「矢川公共用地(都有地)の活用計画」を策定しました。同計画に基づき、令和4(2022)年度に複合公共施設を整備するよう取組を進めています。
- また、基盤整備が進められた経緯から、富士見台地域は、市の中で公共施設が集中している地域です。基本施策29で述べられているように、富士見台地域の公共施設もまた老朽化が進んでいます。「国立市富士見台地域まちづくりビジョン」を実現する過程において、それら施設の再編計画及び新たな施設配置を検討していく必要が生じています。
- 市南部の多摩川沖積地から青柳段丘にかけての地域は、かつて甲州街道を中心とする農村地帯として集落が形成され発展してきました。地域内には、崖線の樹林地や矢川の清流、湧水群など、都心部近郊にありながら水と緑に恵まれた自然環境が残されているとともに、谷保天満宮や南養寺、城山等の歴史ある文化的遺産が分布しており、国立の源ともいえる貴重な地域となっています。
- 昭和59(1984)年3月に策定した「国立市南部地域開発整備基本計画」により、幹線道路の整備や土地区画整理事業が実施されるなど都市基盤の整備が大きく進展しました。平成26(2014)年8月には、市民の新たなニーズや時代の要請に的確に対応したまちづくりを進めていくため、「国立市南部地域整備基本計画」を策定し、南部地域の将来像「豊かな自然・歴史ある文化とともに発展するまち」を目指して整備を推進しています。また、各事業の進捗等の調査、市民意見交換会などを実施し、令和元(2019)年度に計画の中間見直しを行っています。
- 平成30(2018)年度にJ R南武線矢川駅～立川駅付近連続立体交差事業の新規着工準備採択を受け、東京都を中心に事業化に向け調査・検討が進められています。国立市においても、平成30(2018)年6月に改訂された都市計画マスタープランで「J R南武線と道路との立体交差化等による踏切の解消と、南部地域と北部地域をつなぐ道路の整備が必要」としており、少子高齢社会における安全で快適な歩行空間を確保するために、J R南武線連続立体交差事業にあわせて事業を推進することとしています。

<施策の目的及び体系>

それぞれの地域の特性や魅力を活かした都市機能の整備が行われ、恵まれた自然と歴史ある文化遺産と調和しつつ、利便性や快適性、防災面からみた安全性を兼ね備えたまちづくりを進めます。



<展開方向1：回遊性のある国立駅周辺地域のまちづくり>

【目的】

文化財である旧国立駅舎を中心とする国立駅周辺地域を、回遊性のある空間とすることにより、国立市の魅力を高めます。

【手段】

- ◆国立駅南口の駅前広場整備、国立駅周辺の道路整備等を進めることにより、だれもが歩いて街を楽しめる回遊性のある空間を創出します。
- ◆市民に必要な機能を有する公共施設、旧国立駅舎周辺の広場空間及び円形公園等の整備を進め、それらを中心に「市民が集い、来訪者を迎え、にぎわいと交流のある」空間を創出します。
- ◆再築された旧国立駅舎をまちの魅力発信の拠点として活用し、回遊性を高め、まちの活性化につながるよう施設運営を行います。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明又は出典元	実績値	目標値 (KPI)	
				2023年	2027年
国立駅周辺まちづくり事業の進捗率	%	総事業費に対する当該年度までの事業費執行額の割合	64.1 (2018年)	80.6	100
旧国立駅舎及びその周辺で活動に参加した人数	人	旧国立駅舎の来館者数及びイベント等に参加した人数	378,456 (2020年)	380,000	420,000

<展開方向2：多世代が安心して暮らせる活力に満ちた富士見台地域のまちづくり>

【目的】

富士見台地域を、少子高齢社会に対応した、だれもが暮らしやすい理想的な住空間とし、多世代が安心して暮らせる地域とすることにより、国立市の魅力を高めます。

【手段】

- ◆地域住民、UR都市機構、東京都と協働して、まちづくりの方向性を示した「国立市富士見台地域まちづくりビジョン」の実現に向けて取り組みます。
- ◆富士見台地域における、公共施設の再配置の検討を行います。
- ◆矢川公共用地(都有地)を活用して複合公共施設を整備し、施設を拠点に、周辺地域を巻きこん

だまちのにぎわい創出に取り組みます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明又は出典元	実績値	目標値 (KPI)	
				2023年	2027年
富士見台地域の居住人口	人	富士見台地域まちづくり事業区域内の人口 (各年1月1日現在)	17,742 (2019年)	18,000	19,000

＜展開方向3：歴史・文化・自然環境と調和した南部地域の基盤整備＞

【目的】

市街地整備の事業化に向けた調査・検討を行うとともに、区画道路における歩行者・自転車通行の安全性確保や消火活動の円滑化などを目指して、既存道路の拡幅整備により狭あい道路を解消します。

また、南部地域の特徴である歴史・文化・自然環境を保全することで、魅力あるまちづくりを推進します。

【手段】

- ◆南部地域を形成する大きな要素である歴史・文化、環境、農地等の自然環境の保全に配慮した南部地域のまちづくりを計画的に推進していきます。
- ◆市街地を整備するため、土地区画整理事業や市街地再開発事業等による基盤整備を推進するとともに、市の財政負担や関係市民の経済的負担を考慮して、整備手法の見直しや地区計画等の制度を活用したまちづくりも検討します。
- ◆「南部地域狭あい道路整備方針」に基づき対象路線の拡幅整備を進めるとともに、地権者からの用地寄付等にかかる諸費用に対して市が支援することにより、南部地域における計画幅員4m以上道路の整備を計画的に推進します。
- ◆平成26(2014)年4月に改正した「国立市町界町名整理に関する基本方針」に基づき、分かりにくい町名や地番の整理改善作業を計画的に推進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明又は出典元	実績値	目標値 (KPI)	
				2023 年	2027 年
国立市南部地域整備基本計画における南部市街地整備の進捗率	%	「国立市南部地域整備基本計画」に掲げた市街地整備計画の事業進捗率	85.7 (2018 年)	94.6	100
狭あい道路拡幅整備の申請件数	件	狭あい道路整備方針、要項に基づく整備の申請	2 (2018 年)	22	38
南部地域における町名地番整備率	%	実施面積÷南部地域面積（市街化調整区域を除く）×100	59.3 (2018 年)	70.0	75.2
南部地域が魅力的だと思う市民の割合	%	国立市市民意識調査	45.4 (2018 年)	55.4	63.4

<展開方向 4 : JR南武線の連続立体交差と連動したまちづくり>

【目的】

JR南武線連続立体交差事業により、安全な歩行・交通環境の整備、防災機能の向上を図るとともに、駅周辺地域のまちづくりやJR南武線と交差する都市計画道路及び都市計画公園の整備を進め、安全で快適なまちづくりを進めます。

【手段】

- ◆踏切渋滞や踏切事故、鉄道による地域の分断などを解消し、人にやさしいまちづくりを実現するため、東京都、隣接市、鉄道事業者等の関係者と連携して、JR南武線連続立体交差事業による鉄道と道路との立体交差化を促進します。
- ◆JR南武線と道路との立体交差化等により踏切事故や踏切遮断による交通渋滞を解消し、より安全で快適な歩行空間を整備します。
- ◆谷保駅及び矢川駅の周辺地域は、土地区画整理事業や市街地再開発事業等による基盤整備を検討するとともに、谷保駅周辺では踏切道の拡幅等による歩行・交通環境の整備など、矢川駅周辺ではJR南武線と道路との立体交差化等に伴う安全で快適な歩行・交通環境の整備などを進めます。
- ◆JR南武線連続立体交差事業にあわせて、都市計画道路3・3・15号線、3・4・5号線及び3・4・14号線の整備を推進します。
また、矢川上土地区画整理事業の見直しに伴い、区画整理区域に計画区域が含まれている矢川上公園の拡充整備を進めます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明又は出典元	実績値	目標値 (KPI)	
				2023年	2027年
JR南武線連続立体交差事業に伴う市街地整備の事業化進捗率	%	「国立市南部地域整備基本計画（中間見直し）」における南武線連立事業に関連する市街地整備計画の事業化までの進捗率	0 (2019年)	46.2	81.5



JR 国立駅南口